

大沼自治区
保存版

みんなで楽しく未来をつくろう!



しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!

WE LOVE しもやま

2021.4 - 2026.3

まちづくりに大切な2つのこと

1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にいきましょう!

2 みんなで楽しく 未来をつくろう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、
事業者が地域のために行うこと、
みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク
周りにある18の円は11分野と
7つの自治区を表しています。

しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。



10年後の
将来像

下山の10年後の将来像

子どもの声が聞こえ、 笑顔で暮らせるまち しもやま



みんながめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくれます。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

具体的な取組

大沼自治区の取組は、
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



大沼自治区プラン

対象のエリア 大沼町

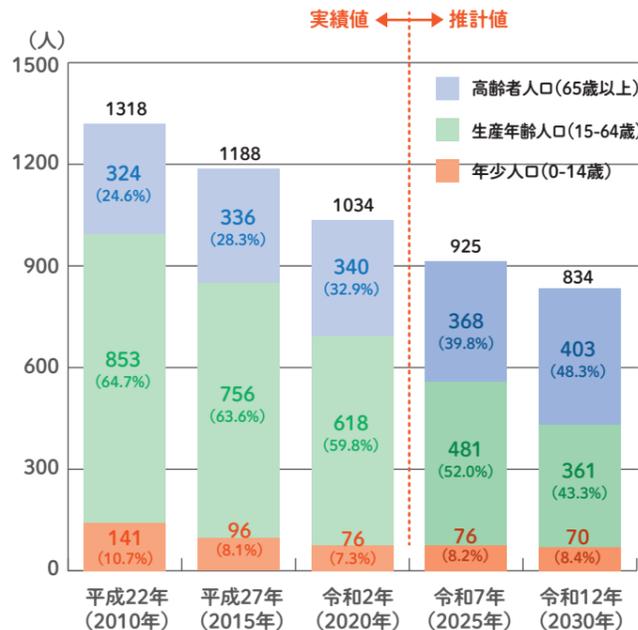
1 大沼自治区の現状

人口の減少、特に子どもや若い人の減少

- 令和2年の人口は1,034人であり、この10年間で284人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は834人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加は進み、高齢化率は48.3%になると予想されます。

人口減少が地域に及ぼす影響

- 子どもの減少により、大沼小学校では一部の学年で複式学級になっています。また、高齢化に伴い、地域の運営・行事などの担い手の減少、ひとり暮らし高齢者や介護世帯の増加、空き家・空き地の増加などが懸念されます。
- 住民アンケートでは、獣害、高齢者の暮らし、子どもの減少などが心配ごととして多くあげられています。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
※各年 10月1日 年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下支所の推計)

2 大沼自治区の10年後の将来像

- ▼ 空き家や空き地、農地などが適切に管理され、美しく整備された景観が広がっています。
- ▼ 多くの空き家や新たな宅地が定住のために提供され、地域のコーディネートのもと、下山出身者が、いつまでも暮らし続けたり、地区外からも多く転入したりして、地域に溶け込んで暮らしています。
- ▼ 高齢者が地域の一員としての役割を果たし、多くの人とコミュニケーションをとることができる環境の中で安心して生き生きと暮らしています。
- ▼ 子どもや子育て世帯が自らまちづくりに参画し、地域の一員として生活したり、地域住民と交流したりすることで、地域の子どもの健やかに成長していくことのできる自治区となっています。
- ▼ 誇れる大沼の歴史や文化、伝統を継承するため、伝統芸能を子どもに伝えるとともに、史跡や美しい景観などが整備され、多くの人を訪れることで、区民の誰もが「WE LOVE 大沼」の気持ちを育んでいます。
- ▼ 子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、定期的なまちづくりについて検討する場を開催し、未来の大沼について考える機会を持っています。
- ▼ 自治区外に転出した人たちも、いつまでも大沼が好きで、機会のあるごとに大沼との関わりを持っています。

3 大沼自治区の5年間の取組

取組1 各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する ～地域の環境(空き地・空き家・農地)の適切な管理と地域の維持・活性化のために～

空き家や空き地を放置されると地域環境に悪い影響を及ぼすとともに、所有者にも心配事や負担となります。空き家や空き地の活用は、問題を解決する一つの方法と考えます。また、活用は、大沼の定住人口の確保にもつながります。活用には、各家の将来について家族みんなで話し合い、5年、10年後を考えた準備をしていくことが大切になります。自治区として、各組や集落の実情に合わせ、住民が安心して暮らせて且つ活気のある地域となることを目標に取組を行っていきます。

取組2 高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり ～高齢になっても安心して暮らし続けられるために～

高齢者人口の増加が見込まれる中、高齢者が暮らしやすい地域づくりが急務となっています。自治区として、高齢者の見守りや声掛けを地域ぐるみで行うとともに、地域の一員としての役割を提供したり、インターネットを活用するなどつながりを創出したりして、高齢者の暮らしの充実を図ります。

取組3 子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり ～若い世代の定住性を高め、子どもの元気な声が聞こえる大沼をめざして～

持続可能な地域にするためには、子どもや子育て世帯が増えることが重要です。そのため、子育て世帯の思いをまちづくりに反映できる仕組みをつくるとともに、地域と子ども、子育て世帯がつながることのできる機会を創出します。また、地域学校共同本部等との連携を深め、子育て環境の充実を図ります。

取組4 誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する ～「WE LOVE 大沼」の深化、継承をめざして～

地域への愛着を深め、暮らすことに誇りを持つ大沼とするため、先人の培ってきた歴史や文化、伝統を継承するための取組を進めるとともに、美しい景観を継承するため、環境整備や植栽の充実を図ります。また、自治区外の方へのおもてなし環境を整備し、区民が大沼の良さを再確認できる機会をつくります。

取組5 持続可能で未来につなぐ大沼まちづくりの推進 ～現在、そして未来の地域課題解決をめざして～

子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、大沼まちづくり部会を定期的で開催し、地域課題の洗い出しや解決に取り組めます。また、関係団体等との調整を図りながら未来の大沼のまちづくりに向けた事業計画の立案や推進を図ります。

令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
1 各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する ① 空き家、空き地調査、空き家予想マップの作成 ② 「大沼住民の生活・暮らしのルール」の作成 ③ 空き家、財産管理、資産活用に関する勉強会の実施、相談窓口の紹介 ④ 移住者、地区外の人達との交流会、意見交換会の実施				
2 高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり ① インターネットを使った交流 ② 高齢者の共通趣味グループづくり、集まれる場所づくり ③ 認知症サポーター養成				
3 子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり ① 子育て世代の保護者の思いや願いを地域につなげる仕組みづくり ② 「思いや願いを聞く会」から「話しやすい会」への展開 ③ 安心・安全につながる見守り活動の地域全体への呼びかけ				
4 誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する ① 史跡を利用した小規模な公園化整備 ② 子どもから高齢者までが一日中楽しめるイベントの開催 ③ 道路周囲の環境美化 ④ 中心地のシンボリックな景観整備				
5 持続可能で未来につなぐ大沼まちづくりの推進 大沼まちづくり部会の定期的な開催				